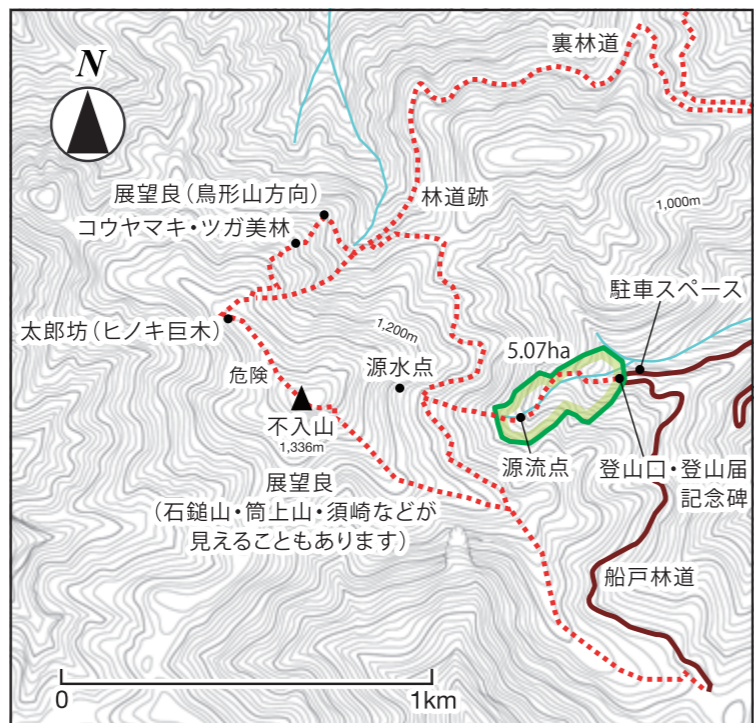
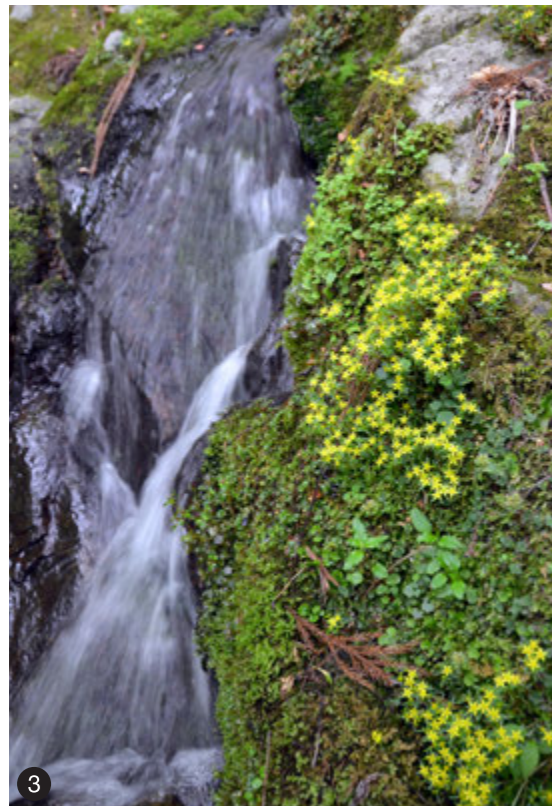


しまんとげんりゅう 四万十源流郷土の森

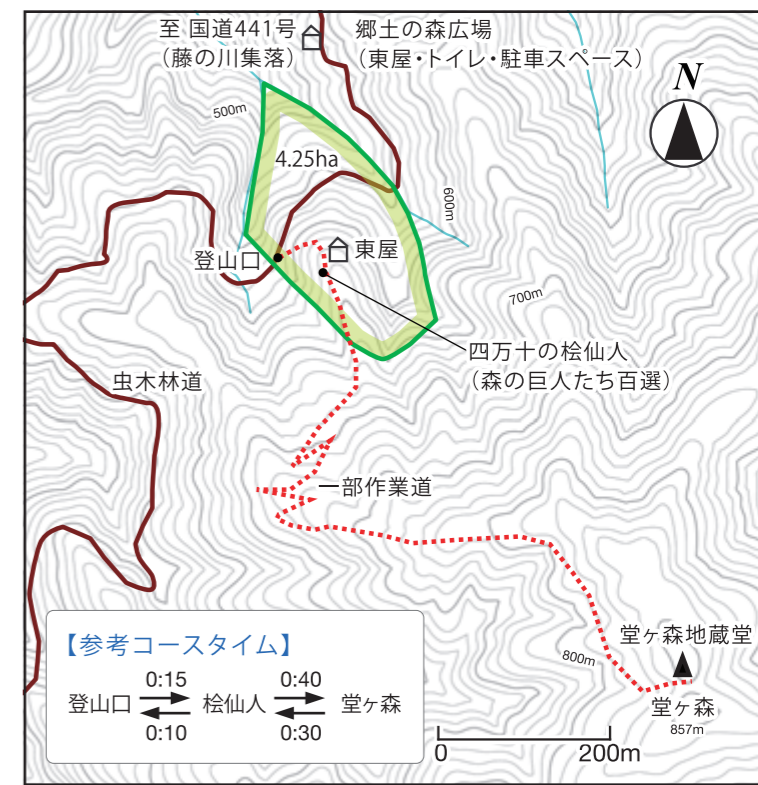
当保護林は「日本最後の清流」として知られる四万十川(延長196km)の源流点にあります。沢沿いには天然林が残され、苔むした岩の間から水が湧き出しています。



①ホオノキ。この森では様々な樹木を観察できます。ホオノキのほか、コウヤマキ、コハウチワカエデ、サワグルミ、ツクシシャクナゲなど約200種の植物が生育しています。②チドリノキ。シデの葉に似ていますが、カエデの仲間です(葉が対に付いています)。沢沿いの湿った環境を好みます。③四万十川源流点。春には黄色いヒメレンゲの花で彩られます。近年の源流ブームで訪れる人が増えています。

にしとさ 西土佐郷土の森

当保護林の一番の見所は、森の巨人たち百選に選ばれた天然ヒノキ(四万十の檜仙人)です。西土佐地域のヒノキは「幡多ヒノキ」のブランドでも知られ、製材すると綺麗な木目が出るのが特徴です。



①上空から見た保護林。周辺の人工林と比較すると、保護林には巨木が多く生えていることがわかります。また、近くには信仰の山でもある堂ヶ森があり、山頂にはお地蔵様が祭られたお堂があります。②ヒノキの葉と球果。ヒノキは古くから建築用材として重宝され、人工林として良く植えられる木です。葉は写真のように鱗片状になり、裏面は白い気孔線がY字に見えます。また、球果は直径1cmほどのサッカーボールのような形をしています。③四万十の檜仙人。樹齢は約250年、樹高は約33m、幹周りは約3.4mあります。

